

# 第36回中央委員会 職場討議資料

## 第36回中央委員会スローガン(案)

メインスローガン

### 創造・参加・実践

結成25年の歴史に学び、  
安全を基礎に次代に責任ある運動を進めよう

サブスローガン

1. 新幹線重大インシデントを重く受け止め、  
職場の視点から安全対策を強化しよう!
2. 労使で築いた次期安全計画の完遂に向け、  
安全提言を活用した参加型の運動を職場から実践しよう!
3. 全員参加の運動を通じて2018春季生活闘争に勝利し、  
JR西日本グループに働く者の賃上げ・生活改善を実現しよう!
4. 分会活動とコミュニケーションを活性化し、ハラスメント防止と  
組合員に信頼される組織の強化・運動の継承を進めよう!
5. 労働力不足をはじめとする課題に向き合い、  
組合発の企画提案運動を通じて展望を拓こう!
6. 男女平等参画、ワーク・ライフ・バランス、  
働き方改革を推進し、充実した職場と豊かな人生を築こう!
7. 地域との対話と参加を大切に、  
鉄道の特性を活かした地域活性化を図ろう!
8. 政治への理解と参加を進め、  
働く者の立場から政策を実現し将来を築こう!



## はじめに

新たな2018年がスタートしました。中期経営計画2017並びに安全考動計画2017を総括し、新たな計画が始まる年となります。

本委員会では、おもに以下の当面する重要方針について提起します。

福知山線列車事故から間もなく13年をむかえ、事故現場の整備も進んでいます。また、本年1月24日で伯備線接触事故から12年となりました。そのような中、昨年12月11日に新幹線の台車に亀裂が発生する、新幹線では初めての「重大インシデント」が発生させてしまいました。今日までの安全最優先の取り組みを進め、着実に安全性の向上を図ってきましたが、今回のリスク

に気づき得なかったことについて、組織全体の課題として重く受け止めなければなりません。また、昨年9月には鉄道労災にはなっていないが、死亡労災事故が発生させています。今後も我々が策定した「安全提言」を基礎に、引き続きグループ会社、協力会社を含めた職場からの安全確立に向けた取り組みを進めていきます。

2018春季生活闘争に対しては、2018年3月期の中間決算では売上、利益ともに過去最高を更新するなど、好調な経営状況にあるJR西日本に対して、組合員の労苦に報いるべく、昨年以上の公正配分を求め、組合員の負担に応え、グループ労組への相乗効果も発揮できるよう組織の

総力を挙げて臨みます。引き続き、集会和学習会の開催や情宣活動の強化など、見える化に努め、理解と参画を進めることとします。また、労使で議論している働き方改革やワーク・ライフ・バランスの推進、シニア・シニアリーダー社員への処遇改善はもちろんのこと、均等・均等待遇の実現、さらには、改正後18年をむかえる賃金昇進制度の見直しに向けた課題の整理など、中長期的な課題の議論を開始していきます。

組織の充実・強化については、労働組合の原点である助け合いの精神を発揮して組合員から信頼され、職場の課題を的確に把握して会社に提起することのできる組織を作りあげ、改めて仲間を寄り添い、組合員とのコミュニケーションを重視した分会活動の充実と、職場でのハラスメント

## 具体的な取り組み方針(案)

### 1 新幹線重大インシデントへの今後の対応について

2017年12月11日に「のぞみ34号」の台車に亀裂等が見つかる重大インシデント発生させました。幸い、怪我人等は発生していませんが、新幹線の安全の根幹に関わる極めて危険な事象であり、ご利用者、国民の新幹線に対する信頼を失墜させかねないものであることを深刻に受け止めなければなりません。今後、運輸安全委員会から正式な調査報告書が公表されますが、今回の事象を受けて浮き彫りになった、検査や指令における体制やルールのあり方などについて、その背景を含めて聖域を設けることなく分析・検証していきます。

今後、関係する地本、新幹線協議会、分会を中心に組合員の声を聴き、労働組合の視点で議論、提起するために「新幹線問題対策会議」を必要に応じて開催し、課題を整理したうえで、短期的・中長期的視点に分けて会社に申し入れを行い、徹底した労使協議を行っていくこととします。

撲滅に取り組み、魅力と求心力のあるJR西労組運動を全員参加で作りに上げていかなければなりません。このほか、JRに関係する政策課題は依然山積しており、政治との連携が不可欠です。会社の持続的な発展にむけ、組合員と家族に政治の重要性について理解を深めていくこととします。

30年をむかえました。今日の安定した雇用と労働条件や平和な労使関係は、先輩方の努力や社会の理解と支援の賜物であり、今後も継続、発展させていくために、JR西労組の歴史を振り返り、「次代の運動指針」の具現化に向けた取り組みを全組合員で進めていくこととします。

組合員各位には、こうした問題意識に基づき、建設的で真摯な討議を行い、次世代にむけて、魅力と責任あるJR西労組運動を研ぎ、実践いただくよう要請します。

### これまでの経過

- 12/11 のぞみ34号の台車枠に亀裂等が発見
- 12/12 運輸安全委員会が新幹線初の「重大インシデント」に認定
- 12/13 「(申13号)のぞみ34号の台車枠亀裂発生に対する緊急申し入れ」提出
- 12/18 [緊急職場集会]博多総合車両所
- 12/19 JR西日本が記者会見
- 12/20 社長定例記者会見
- 12/20 委員長メッセージ発信
- 12/21 「(経小)」「のぞみ34号の台車枠亀裂発生に対する緊急申し入れ」
- 12/25 臨時労使安全会議の早期開催を会社へ要請(3労組)
- 12/26 西労へ臨時労組安全会議への参加を呼びかけ
- 12/25 「(申14号)新検査体系導入に伴う体制見直しに関する申し入れ」提出
- 12/25 [緊急職場集会]新幹線管理本部分会、大幹車分会
- 12/26 [緊急職場集会]東京指令所分会(2回)
- 12/27 JR西日本が記者会見
- 12/28 「新検査体系導入に伴う体制見直しに関する申し入れ」に関して交渉
- 1/5 社長会見(今後の対策、役員交代など)
- 1/10 臨時労使安全会議
- 1/14 新幹線問題対策会議(関係分会代表者会議)
- 1/16 「(申15号)重大インシデント発生に伴い実施する課題克服に向けた対策等に関する申し入れ(第1次)」提出